

# 光市医師会報

平成元年12月号

No. 206



産業「市」

光市医師会

## 医師会月間行事

### 平成元年11月度理事会

11月14日(火) 午後7時30分～

光市医師会館

(出席者) 竹中会長、福本副会長

富恵・丸岩・赤崎・梅田・近藤

藤原・吉村各理事

#### 議 題 (報告・協議事項)

##### 1) 第111回定例代議員会の報告

(竹中会長)

##### 2) 学校医研修会の件 (福本副会長)

##### 3) 12月度の理事会について

(福本副会長)

12月5日第1火曜日に理事会を開催

##### 4) サーベイランス調査票の件

(福本副会長)

来年1月より調査票作成を福本医院より  
梅田病院へ変更

##### 5) 周南地域医療計画協議会の報告

(丸岩理事)

##### 6) 周南三市医師会より、平成2年度の自治体に対する要望書の件 (福本副会長)

光市医師会でまとめた要望書の原案を、  
徳山・下松医師会に示し、その回答の結果を12月の理事会で検討し、最終案を2  
市医師会へ発送する。

##### 7) その他

イ) 光市医師会史の寄贈のお礼の件

ロ) MMRワクチンの件

MMRワクチンの副作用が問題にな  
っており、麻疹単独ワクチン施行に

ついて市と折衝検討。

ハ) 医事紛争研究会の件

ニ) ファクスの紙の件

ホ) 2月の講演会の件

ヘ) 福祉事務所嘱託医会議の報告

(丸岩理事)

ト) 三師会旅行の写真の件

### 周南三市医師会役員協議会

平成元年11月7日(火) 午後7時～

光市松屋ホテル

(当番医師会—光市医師会)

(出席者)

徳山医師会 永末会長、徳長副会長

光永・石川・武居各理事

下松医師会 西辻会長、藤原副会長

松野・加来・沢・荻野

武内・岡藤・野見山各理事

光市医師会 竹中会長、福本副会長

富恵・丸岩・梅田・吉村各

理事

#### (議 題)

##### 1) 平成2年度自治体に対する要望

(イ) 学校医、園医報酬等

各市の要望額案説明

(徳山) 石川理事、(下松) 野見山理  
事、(光) 福本副会長

(ロ) 予防接種等

各市の要望額案説明

(徳山) 武末理事、(下松) 岡藤理事

(光) 福本副会長



## 2) 労働者の健康診断料について

(下松) 西辻会長、(光) 丸岩理事

10月1日より労働安全衛生規則、有機溶剤中毒予防規則、鉛中毒予防規則が改正施行されるに伴い、診断料の取扱いについて討議

## 3) ハシカワクチン接種について

(光) 竹中会長

## 4) その他

医療廃棄物の処理の件

(徳山) 光永理事が徳山医師会の医療廃棄物処理の現況と今後の計画等を説明

## 平成元年11月度月例会・研修会

11月28日(火)

光市保健センター

〔研修会〕 午後7時30分～

演 題 「治療抵抗性・難治性高血圧の実態と対策」

講 師 光市立病院長  
県高血圧研究会周南地区世話人  
板垣省三先生



## 〔月例会〕 研修会終了後

(報告・協議事項)

## 1) 第111回定例代議員会の報告

(竹中会長)

## 2) 医事紛争担当理事協議会の報告

(竹中会長)

## 3) ハシカワクチン予防接種について

(竹中会長)

市と協議の結果、麻疹単独ワクチンを再開する。麻疹ワクチンの希望者は、MMRワクチンを放棄したものとみなす。MMRワクチンの紙に麻疹と書いて市に提出する。(来年3月迄の暫定的な処置)

## 4) 学校医研修会について(福本副会長)

12月9日に開催する。多数の会員の出席・協力を要請

## 5) 周南地区地域医療計画協議会の報告

(丸岩理事)

## 6) 忘年会について

(梅田理事)

12月14日におこなう。

## 7) その他

イ) 救急業務に関する協力申出の更新について

ロ) 平成元年度山口県優生保護審査会の開催について

ハ) 麻酔科標榜許可申請について

ニ) 交通事故傷害保険の件

ホ) じん肺診断技術研修について

ヘ) 第22回若年者心疾患対策協議会総会の開催について

ト) 大腸がん検診のビデオテープの斡施の件

チ) 徳山医師会病院コンサルタントのお知らせの件

### 心電図研究会 (第17回)

下松・光市医師会合同  
11月17日(金) 午後7時30分～  
光市立病院講義室

演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院 河野隆任先生  
(症例)

- ①心室細動発作の約1年後に心筋梗塞  
72才 ♂ 赤崎先生症例
- ②心筋梗塞 53才 ♂ 河野先生症例

### 光市医師会会員親睦旅行

11月11日・12日  
(後出)

#### 研修会バス運行

11月19日(日) 山口県教育会館  
第13回卒後生涯研修セミナー  
日本医師会生涯教育講座  
山口県救急医療施設医師研修会

#### 光市・県医師会関連行事等出席

- 1) 医事紛争担当理事協議会  
竹中会長出席 11月16日 県医師会館
- 2) 周南地域医療対策協議会  
丸岩理事出席 11月16日 徳山保健所
- 3) 労務担当理事協議会  
梅田理事出席 11月30日 県医師会館
- 4) 結核審査会  
副本副会長出席 11月16日 徳山保健所

#### 平成元年度永年勤続表彰

(各医療機関にて表彰)

表彰者 計25名  
3年—10名  
5年—10名  
10年—5名

ト ヒ ッ ク ス

### 渡辺貞雄先生に

#### 「市政功労者」の表彰

市政に貢献された人に、11月9日今年度の市長表彰がおこなわれ、渡辺先生が税務行政の振興に寄与され表彰された。



写真撮影のため先生のお宅をお邪魔し、いろいろと納税組合関係の苦労話をお聞きしました。受彰のお祝いを申し上げます。



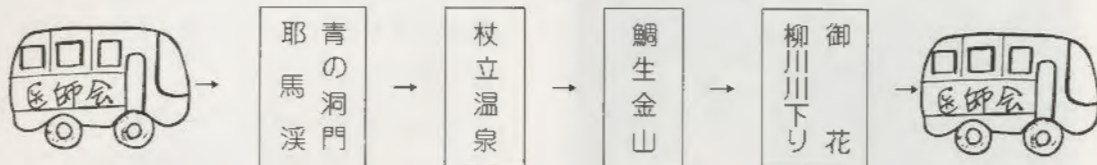
#### 下松・光市医師会合同 医事紛争対策研究会

11月21日(火) 午後7時～  
下松市民会館

演 題 「医事紛争防止対策と最近の事例」

講 師 県医師会医事紛争対策委員会  
委員長 後 克和先生  
副委員長 藤井正敏先生

❖ 医師会会員親睦旅行 ❖



## 杖立温泉への旅

道上文和

光医師会秋季家族旅行は老若合わせて18人、杖立温泉へのバスの旅であった。旅行は出かける迄はおっくうであるが、ひとたび旅人になってしまうと浮世を忘れ、心はずむもので、今回もその通りであった。

11月11日(土)の昼、光を出発、中国縦貫道・九州自動車道・国道10号線を通り中津に着き、そこから212号線に入った。福沢諭吉の育った中津の町を走り、頼山陽が絶賛した耶馬溪へと向かった。

1720年禅海和尚が30余年を費やして掘り抜いた『青の洞門』を車中より見る。そのトンネルは全長185mに及んだそうであるが、今はその一部しか残っていない。ノミと槌だけで毎日々30年間！気の遠くなるような話である。菊池寛が『恩讐の彼方に』で小説化しているが、人間一途な姿に善悪は無い、仏も見えてくる。若いカップルが車を止めて見ていたが、何を感じているのだろうか。

耶馬溪は期待していた紅葉はなかったが、一つ一つの風景が絵になり、さすが山水画の題材にふさわしい。

山を観るけふいちにちは笠をかぶらず

(昭和5年11月15日)

山頭火は詠んでいる。彼は昭和5年9月

から12月までこのあたりを行乞しているが、その前にノートの数冊を焼き払った。

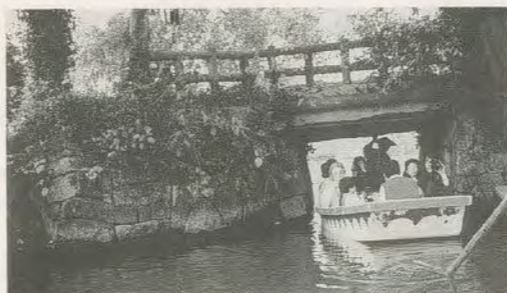
焼き捨て、日記の灰のこれだけか

過去を捨て、世俗の執着を断ち切り、ただ無心でありたかった。しかし未練はあるのが。それにしても残った灰がこれだけとは。好きな句である。

途中『一目八景』というところでバスを止め、冷え冷えとする空気を吸った。確かに絵になる風景である。40才後半、人生をある程度やり遂げつつある時に、この地に立てば必ず涙するに違いない。冬には霜がおり、白く冷たくなるであろう木々もよくみると優しさがあるのである。子供の頃の懐かしい匂いを感じるのである。

バスは耶馬溪を過ぎ、珍珠町・九重町を抜け熊本に入り、今夜の宿泊地、杖立温泉『ひぜんや別館 大自然』に到着した。すぐに小宴会である。幹事梅田先生の司会、竹中会長の挨拶、福本副会長の乾杯で始まった。御婦人同伴に、若いコンパニオンも加わり何時にない華やかな宴であったよう





に思えた。料理もおいしく（今回の旅は本当に食事が素晴らしかった。梅田先生の心配りに心より感謝します）、竹中先生の渋い喉、中村先生の若々しい歌、玄人はだしの吉村先生の美声、それに御婦人の素晴らしいソプラノ、たっぷり堪能させて頂いた。

杖立の湯は弱食塩泉で、リュウマチ・神経痛・創傷・皮膚病に良いと云われている。温泉には3度入るのが“通”らしいが、2回しか入らなかった。私には湯はちょっとぬるかった。

翌朝はボリュームたっぷりの朝食の後、8時45分『鯛生金山』に向けて出発した。明治27年に発見され昭和47年に閉山する迄に、金40トン・銀160トンを産出したが、蟻の巣のように堀巡らされた坑道を見ると、その間の人々の壮大な血と汗と涙のドラマが見えて来る。人間の欲がからみ生々しい。特産のワサビやシイタケ、独特の色合いの鯛生焼が土産品としてあるそうだが、悲しいかな、「金の延棒」という羊羹を買ってしまった。憤ましい欲であると思っている。

バスは西に進む。八女を抜け、北原白秋のふるさと柳川を目指した。そこで小一時間川下りを楽しんだ。舟上で名物「ウナギのせいり蒸し」を味わう。行き交う他の観光客の目を意識しながら、堀割を縁どる老柳の下を進み、途中白無垢の花嫁に会い、

“おしあわせに”と妙にやさしい気分になったりして、鰻の供養塔の案内を聞きながら箸をすすめた。どんより曇った空が、濁った水面に合っていた。

立花家を偲ぶ「御花」で一時を過ごし、バスは八女インターより九州自動車道に入り、帰路についた。振り返ってみればあわただしい二日間であったが、女房と二人きりの旅行は11年ぶりのことである。昔「偕老同穴」と誓いあった事もある。よい「思い出」が出来たと感謝している。

## ＝ 編集後記 ＝

新しい年号に変わった平成元年も終りが近づき、1980年代とも別れを告げようとしております。12月にはいり日中が比較的暖かい日が多いせいか師走といった感じが致しません。年賀状を書き、シングルベルの音が流れてくる頃には年の瀬が実感としてわいてくるのかもしれませんが。

今月は道上先生に叙情豊かな旅行記を書いていただきました。漂泊の排人山頭火に興味を持っておられるとは。医師会旅行は大変楽しい旅でしたが、こういう企画は梅田先生の独壇場ようです。

会員の皆様良いお年をおむかえ下さい。

(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社